

2006年度 東京大学 学術俯瞰講義
社会の形成—人間はいかに共生してきたか—

権力と自由の生態について

第2回 政治権力の制度化

佐々木 毅

本講義資料内の著作物の再使用、二次的著作物の創作などについては、
著作権者より直接承諾を得る必要があります。

1.1 権力現象の遍在

- 人間の社会・共存関係のあるところ、権力現象は常に存在する(自由の存在と裏腹に)
 - 家族、集落、諸団体、企業、大学、軍隊、「国家」、市場、国際機関 など

1.2 権力現象の区別

- 量的区別と質的区別
- 三つの支配形態の分類
 - 主人的支配
 - 王的支配
 - 政治家の支配
- 政治学にとっての質的区別の重要性

アリストテレス (384～322 B.C.)



http://commons.wikimedia.org/wiki/Image:Aristoteles_Louvre.jpg

「政治家、君主、家長、主人は皆その性質が同じであると考えている人々がいるが、彼らの言うところは正しくない(これらの間に種類の上での違いがないと考えているのは正しくない)」

アリストテレス『政治学』第一巻第一章

1.3 政治権力 (political power) の発見と政治学の誕生

- 政治共同体 (polis) vs. 専制政・独裁政
- ノモス (法・制度) の支配 (自由の実現) vs. 恐怖による人の支配 (恐怖の連鎖)
- 複数の自由人によるノモスを基盤とする自己統治 = 政治共同体
- 政治共同体の権力としての政治権力 (公的権力であり、その私物化は腐敗現象)

2.1 権力と限界の問題

- 権力の誘惑＝権力者の自由の極大化
- 権力を維持するためには更に権力を求める必要がある(権力追求者の競合)
- 教育(儒教)、伝統や宗教、制度などによる制限

2.2 権力と制度

- 権力は制度を基盤とする（制度を前提にした権力）
- 制度は権力を基盤とする（制度を創る権力）
- 両者の循環関係

2.3 政治権力の二つの顔

- 政治権力は制度化を前提にする(複数の主体の影響力の保障のために)～正常な状態
- 征服や革命といった異常な事態
～「政治」権力は制度化の担い手である(権力があって全ての制度は始まる)
- マキアヴェッリ以降の問題提起～政治権力は制度化し切れるか？
- 憲法制定権力と憲法を前提にした権力

ニッコロ・マキアヴェッリ (1468～1527)



<http://commons.wikimedia.org/wiki/Image:Machiavelli.jpg>

2006/4/20

3.1 国制 (constitution) に従った権力行使

- 古き良き政体の再生産
- 「法の支配」と正義の実現 (法的共同体の理念)
- 違反行為に対する制裁と抵抗権

3.2 制度的抑制均衡による権力暴走の防止

- 政治的自由と政治機構論の伝統 vs. 行政機構
- 多様な政治主体の間の均衡～混合政体論
- 権力分立論の流れ～モンテスキューの権威、アメリカ合衆国憲法

シャルル・ド・モンテスキュー (1689～1755)



http://commons.wikimedia.org/wiki/Image:Montesquieu_1.png

2006/4/20

3.3 政治権力はどこまで制度化が可能か

- 政治権力の環境はどこまで安定的か
- 政治権力はどこまで環境を自らコントロールできるのか
- 巨大な環境の変化が起こった場合、政治権力はどうするのか
- 政治権力の制度化は自己目的か